

社会福祉施設等での安全衛生活動

全国的な社会福祉施設での労働災害の傾向

全国的に、社会福祉施設の労働災害は増加傾向にあります。特に、社会福祉施設での主な労働災害は、介助に伴う「腰痛」や「転倒」です。また、施設利用者の送迎時の交通事故も社会福祉施設での特有な事故です。

こうした労働災害の防止対策の有効なツールの一つが、「職場の危険の見える化」です。職場に潜む危険などは、視覚的に捉えられないものが多数あり、これらを見る化することで、より効果的な安全衛生活動を行うことができます。

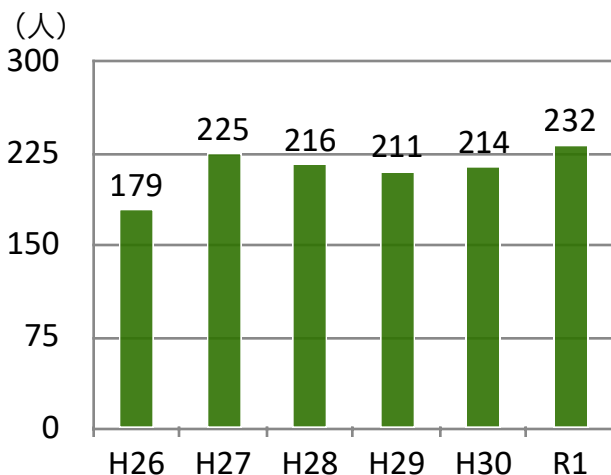
「職場の危険の見える化」のポイント

介助に伴う「腰痛予防」や「転倒予防」の見える化

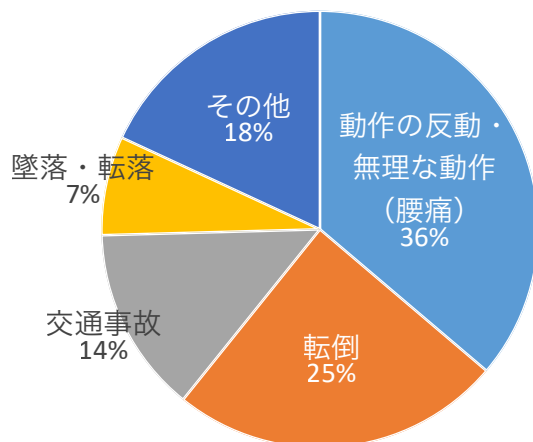
- ①「人力での要介護者の抱え上げは、原則、行わないこと」及び「福祉用具を活用すること」であり、介助に伴う「腰痛予防」や「転倒予防」の見える化に、まずは最重要点に取り組むこと。
 - ②福祉器具が必要な要介護者には、ケアプランに「福祉用具の使用」を明記すること（ケアプランに明記するとともに、具体的に使用する「福祉用具を写真やイラストで明示」することも効果的）。
 - ③介助方法マニュアルに、「福祉用具の使用を、写真やイラストで明示する。
 - ④「危険の見える化と同時に、介護職員に対し教育の機会を提供すること（福祉用具を正しく使えば、効率的で便利なツールであること）。
- また、動画を活用することも効果的です。

介助以外での転倒防止や交通事故防止の見える化

- ①介助以外での転倒防止の見える化
- ②施設利用者の送迎時の交通労働災害防止の見える化

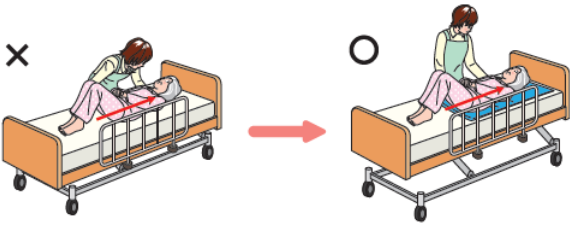


社会福祉施設での休業4日以上労働災害の推移

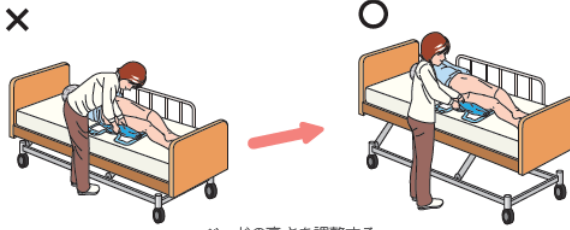


社会福祉施設での休業4日以上死傷者の事故の型別
(令和元年 京都労働局)

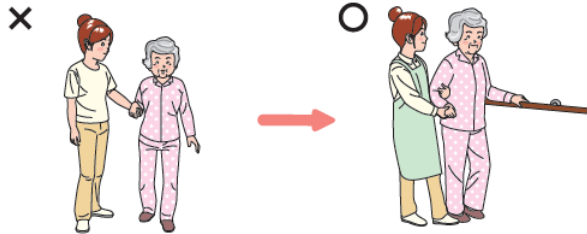
1 介助に伴う「腰痛予防」や「転倒予防」の見える化



スライディングシートを使用する



ベッドの高さを調整する



利用者の真横についた歩行介助は
利用者の転倒を防げません

利用者の斜め後ろから補助介助を行うこと
により、転倒の危険性は減少します

2 ケアプランに「福祉用具の使用」を明記することも見える化 (これも一種の見える化)

・ケアプランに「福祉用具の使用を明記するとともに、具体的に使用する「福祉用具を写真やイラストで明示」することも効果的。



3 介助方法マニュアルに、「福祉用具の使用」を明示する見える化



・介助方法マニュアルに、「福祉用具の使用」を、写真やイラストで明示する。

4 「危険の見える化」と同時に、介護労働者に対し教育の機会を提供すること。

・福祉用具は、正しく使えば、
効率的で便利なツール



介助以外での転倒防止や交通事故防止の見える化

① 介助以外での転倒の危険の見える化の例

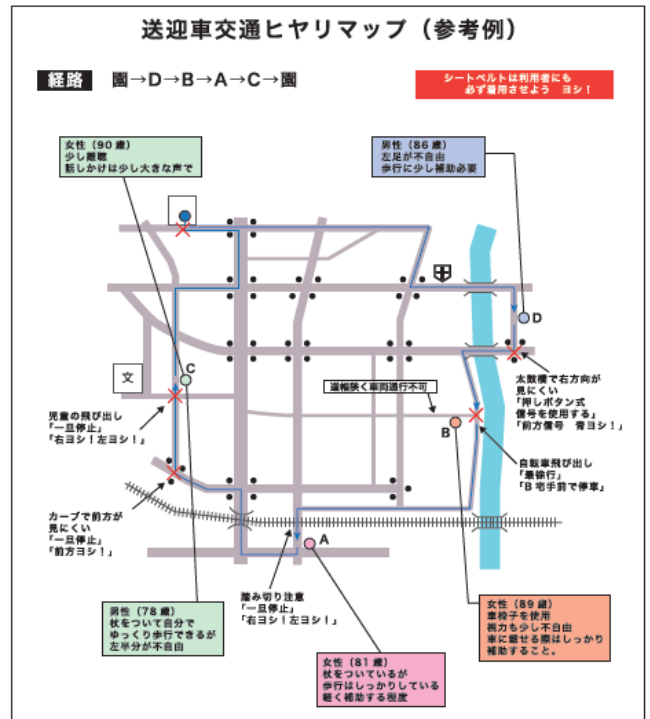


床を濡れたままにしない



濡れた床をすぐに拭き取る

② 施設利用者の送迎時の交通労働災害防止の見える化



施設利用者の送迎時の交通事故防止として、
交通ヒヤリマップを作成することも効果的です。